

令和 7 年度

大阪大学

一般選抜（前期日程）

解答例又は出題の意図

国語（L）

## I

### 問一

アーカイヴは収集、保管、公開を役割とし、その各段階でアーカイヴを主体とした選別と排除が行われている。そのアーカイヴがもたらす力関係によって、不要と判断された資料の内容や事実が、一方的に抑圧される可能性があるから。

### 問二

特定の価値判断のもとにある「モノ」を蒐集することにより、入手された「モノ」は固有の文脈を失い、独自性のある個物（個人）ではなく、蒐集者の基準によって価値づけられ、意味づけられる受動的「対象」に変わってしまうということ。

### 問三

本文によれば、アートにおける蒐集は、アーティストの直感や連想によって行われる。この方法は一定の価値のもとに行われなかったため、これまで目にとめられなかった「モノ」に重要性を与え、新たな関連づけを生み出すことになり、従来の歴史記述では見出すことのできない記録や記憶を浮かび上がらせる可能性がある。

### 問四

ジグルドソンの作品では、古い手紙や公文書などの断片が雑多に集められ、規範によって選別されていない。「モノ」がその意味や価値を明確に「語る」ことができないため、観客は静かな「モノ」の集積を前にすることになる。そのような多様な沈黙に耳を澄まし、そこに潜む決定不可能な意味を感じ取るよう期待していると考えられる。

## II

### 問一

人間の肉体が生側の側だけではなく死側の側にも属することを目の当たりにした不安や恐怖を表現するために、生の側の肉体を示す「かれら」が「川上へのぼったり流れくだったり」と生きているかのように描きつつ、死側の側の肉体を示す「それら」も「漂白の疲れをいやし、一刻の憩いをたのしんでいる」とやはり生きているかのように描いている。

### 問二

焼死するのは老人や女子供だけだと思っていたが、学生服を着た水死体を見たことで、自分たち若い男も死に晒されていることに気がついたと共に、数日姿を見せていない友人たちの身の上が案じられたから。

### 問三

空襲で家を焼かれた折の避難方法を緻密に計算し、風向きなども含めた最適な避難ルートを作ったものの、それがあたかも死を避けうる万全な計画であるかのように、隣組の人々も従う予定になっていることに困惑し、皮肉さえ感じているから。

### 問四

十七歳の「私」は、川に流れてくる死体を毎日眺めているうちに、自分と同年齢の学生服の死体が流れてきたことで、十七歳はいつ死んでもおかしくない年齢であると気づかされる。「私」は、徴兵や清川の家系を絶やさないための結婚は「大人」の領分のもので、十七歳としては不自然であるが、戦争が強制的に十七歳を「大人」の領域に引き入れたと考えている。

## III

### 問一

- (a) 一晩中寝ることができない
- (b) 全てがまだ白くなっているのではなく

### 問二

清見潟の磯辺に近い旅宿で、袖に波がかかるわけではないが、旅のつらさ・悲しさによって涙で袖を濡らしている様子。

### 問三

沖を吹く風が今朝は荒く、荒磯の岩伝いに波間を分けて衣を濡らしながら行くことだ。

### 問四

「かれもこれも」は、香炉峰の麓の庵で、その峰の雪を見るという詩句を詠んだ白居易と、筆者が泊まっている家にかつて宿を借り、富士の白雪を歌に詠んで障子に書き付けた旅人のことである。筆者は、峰の雪を思いやり、それを詩歌に詠んだ、両者の清らかな風流心を評価している。

### 問五

富士山に風によって漂う白雲を、昔、都良香が見たという並び舞う白衣の天女の袖かと見ることだ。

#### IV

##### 問一

そうか（さうか）にがじんあるをみる。

##### 問二

宣孟からもらった干し肉を食べずに残しておいて、それを老母に食べさせたいと思ったから。

##### 問三

宣孟は、靈公が自分を暗殺するため、部屋の中に刺客を隠していることを察知し、身の安全を図って酒宴の場から逃げ出した。

##### 問四

（現代語訳）名乗るほどの者ではありません。

（理由）ただ恩返しするだけで十分であり、名乗るのは烏澁がましいと考えたから。

##### 問五

三年前、飢えで行き倒れになった自分と老母の命を救ってくれた宣孟に対し、今度は死を賭して宣孟を守り、恩義に報いたいと思ったから。

以上です